



1年 林 佑人くん

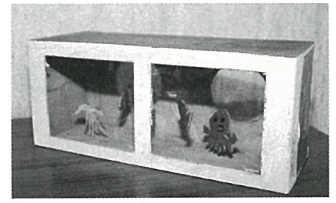


『ふたこぶらくだ』

※はこやカップを
あつめてつくったよ。こ
びがじょうず
にできたでし
よ。



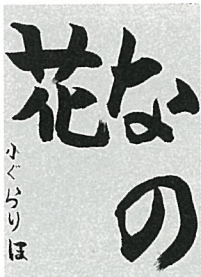
2年 伊藤 菜友子さん



『ゆめのすいぞくかん』

※タコやクラゲに、サカナも
いるよ。わた
しも、ここで
およいでみた
いなあ。

あつまれ みんなの 力作

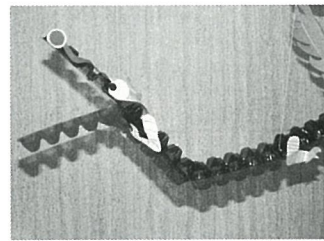


『なの花』



3年 小倉 吏畝さん

※むずかしかったけど、力を
入れたりめい
たりするところを
気をつけて書きました。

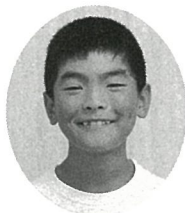


『勇ましいりゅう』

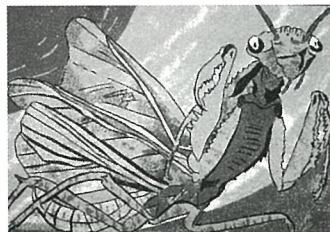


4年 竹下 宙杜くん

※玉子パックをつなげて動く
ように、「りゅう」の
マリオンネットを作
りました。



5年 金子 友直くん



『夕日のカマキリ』

※下絵を細かく
かいたので砂
をはっていく
のが大変でした。
時間がかり
ました。



6年 川野 萌さん



『私の一球!!』

※細かい所の色
が、変わらな
いように、粘
土に色をぬる
のが大変で
した。



ひかり俳壇

手花火を囲んで小さな膝小僧

川島 通則 (二又)

こうした光景はとすれば見逃し
てしまうものだが作者の作家魂は
見逃さなかった

晩酌を独りで嗜む遠花火

伊藤 定男 (尾垂)

坂田湖畔の花火でもあろう遠い花
火を遠景としてチビリ、チビリと
晩酌を嗜む

山並みの向こうに揚る遠花火

鈴木とし子 (宝米)

やはり坂田湖畔の花火であろう、
森の上から華やかな花火を見る楽
しさ

なかなか暮れぬ湖畔の花火待

川島 重一 (尾垂)

手花火に映る母子の顔白し

越川せつ子 (篠本)

揚花火上総の闇に開きけり

布施 和代 (二又)

短評

椎名しげる

評者吟
火を点けし鼠花火に追いかけるる